

目次

はじめに	3
1. 実演家等のキャリアアップに求められていることーグループインタビュー調査	4
1. 1. 調査概要	4
1. 2. 調査結果概要	5
(1) 異業種交流・横のつながり	5
(2) 研修ニーズ	6
(3) 芸術に触れる仕組み	9
(4) 心身トレーニング、健康管理	9
(5) 公演機会の確保	11
(6) 練習場の確保	12
(7) 情報収集・提供	13
(8) 芸能の地位向上	13
1. 3. 芸能実演家のためのキャリアアップ支援策	14
1. 4. 各グループからの発言内容	16
声楽グループ／舞踊グループ／演劇グループ	
ミュージカルグループ／演芸グループ／邦楽グループ	
2. 芸能関係専門家の研修基盤の現状と問題点	32
2. 1. 養成と研修の区分	32
(1) 養成よりも、不足している研修機会ーキャリアアップを支えるもの	32
2. 2. 実演家のキャリアパターン	34
(1) 人が人を育てる養成課程	36
(2) 才能や能力をのばす意欲を継続させる必要性	37
2. 3. キャリアアップ支援のタイプ分類	37
(1) 種類別	37
(2) 実施者タイプ別	40
2. 4. 課題点	43
3. 芸能関係専門家のキャリア形成と芸団協の取り組みの方向性	45
3. 1. 芸団協として取り組むキャリアアップ支援策	46
(1) 短期的課題：芸能文化拠点計画の実現で対応を	46
(2) 中期的課題：事業を軌道にのせ経験のさらなる蓄積を	47
(3) 長期的課題：芸能専門家キャリアサポート・センター構想への展望	47
3. 2. 文化庁施策への提言	48
(1) 文化庁芸術家研修制度への提案	48
① 芸術家研修制度のバックアップ体制確立と内容充実の提案	48
② 舞台技術関連の研修制度の具体的な提案	49

(2)文化庁の芸術団体人材育成事業と人材養成プランの見直し	50
4. 芸能実演家等のキャリア形成のための論考	52
4. 1. はじめに	52
4. 2. わが国における労働者・専門家のキャリアアップ・転換に関する施策	52
(1)労働者の能力開発にかかわる政策・制度と問題	53
(2)学術・教育における専門家能力の向上に関する政策・制度と問題	54
4. 3. キャリア向上のための施策	55
(1)国・地方公共団体に求められる施策	55
(2)芸団協に求められる施策	56
4. 4. キャリア転換のための施策	58
(1)国・地方公共団体に求められる施策	58
(2)芸団協に求められる施策	59
プロジェクト構成	60
参考研究一覧	64

※「第一部 芸能が豊かな社会をつくるという理念の実現にむけて」
「第二部 人々が芸能にふれる場を創出するために
—「劇場」、「アーツセンター」として文化拠点が全国で活用されるようにしよう」
「第三部 芸能組織が豊かな活動を展開するために—自らの使命を確認し、行動へ」
は、Prat I として別冊に収録

はじめに

芸団協ではここ 10 年ぐらい実演家、技術者、実務者などの芸能の専門家を対象とした研修事業を徐々に充実させてきた。その理由は、この職業に就いた人々が自らの能力を高め、養い、高度な活動を展開することによって、豊かな芸能文化を創る大きな力になることができると考えたからである。

また、芸団協は 5 年に一度の芸能実演家の活動実態調査、さらに芸能文化に関する基礎的な研究と『芸能白書』の発行などの研究蓄積のなかで、芸能専門家のキャリア形成についての諸課題が鮮明になってきた。実演家を中心としてこの職業を概括すると、10 代 20 代で職業に参入し、25 歳から 35 歳の間で、過酷な競争と自己才能の限界、経済的な苦しさや継続意識などの結果、職業転換が進み、40 代以降にキャリアが確立し、これ以降は暫減が進むという傾向が特徴であることが明らかになった。また、バレエなどの分野については 40 代までに現役引退を迎えるものも存在する。

才能と意欲ある芸能専門家のキャリア形成を芸能分野ごとの特徴に配慮しながら支援していくことが芸能文化の発展に貢献することになると考えた。そしてこのような役割を誰が担うかである。

また、キャリア形成の過程を大きく、職業に就くまでの「養成」過程と、職業に就いて以後のキャリアアップを「研修」と 2 つに分け、実演家を中心とする芸能専門家が心おきなく仕事に取り組める「養成・就業・研修・職業継続・退職（転換）」のキャリアライフ・ステージと社会保障についてトータルに捉え、キャリアステージごとでのニーズ、担うべき役割分担を明らかにして取り組む方向性を検討した。

「養成」については芸能専門家による個人教授、個々の芸能団体の養成事業、公的な教育機関が歴史的に担っており、演劇や舞踊など公的教育機関が未整備な分野での設置に向けた政策提言、ならびに芸能分野ごとの改善策が別途必要と考える。

そして、芸団協をはじめとする基盤整備団体は「研修・職業継続・退職（転換）」についてのキャリアアップ・サポートを行うことが重要な任務であると考え、この研究に取り組んだ。

研究の枠組みは、

- (1) 「養成・研修・職業継続・退職」ステージの分析とサポートの現状
- (2) 実演家のキャリア形成に必要と考えられることについて分野ごとのニーズを探るグループインタビューの実施
- (3) 実演家のキャリア形成のために必要となる政策的課題
- (4) 芸団協として取り組むべき課題

とし、プロジェクトチームを編成し、課題の整理、グループインタビューの設定と分析、さらに研究者の協力を得て、労働者、学術・教育専門家のキャリア政策の特徴を参考としつつ、芸能分野におけるキャリア形成の可能性を模索し、芸団協として取り組む課題と文化庁への提案をまとめた。なお、本研究と並行して芸団協では芸能関係者のスキルアップ研修教材開発事業を行っており、その中で、「舞台技術者の技能とその研修と資格制度についての研究」に取り組んでおり、その研究からの提言も盛り込んで本報告とした。

最後に、6 分野 36 名の実演家の協力を得て実施したグループインタビューが、この研究の中心となっている。ご協力いただいた匿名の皆様ここに感謝申し上げます。